

日本語を母語としない子どもたちとともに
JSL 日本語指導教育研究会通信

JSL (=Japanese as a second language)

平成30年3月第6号 NO.1

発行者 会長 熊本 修治

日本語指導教育研究会 事務局

第11回研修会

全体研修1 会場校 香陵小学校の取組 大石先生 長谷川恵未先生

香陵小学校では、児童を指導する前にDLAを実施し、児童の日本語の力を正確に認識した上で、個々にあった指導を行っています。4月の初めに日本語の目標を持たせ、書かせています。取り出し指導では、担任の先生方と協力して教材研究をさせています。

会場校 博多小学校の取組み 合田佐和子先生

博多小学校では、ワールドルームの個々の児童に合った指導がされています。書く活動において、書きたいと思わせる学習の手立てや個々の日本語のレベルに応じた取り組みが丁寧になされています。新しい学習教具を積極的に導入される姿勢が大変勉強になりました。

- ワークシートや音読劇のためにきめ細かい対応をされていると思いました。
- 書くことが嫌いだった児童に対する取り組みがしっかりとなされていました。

全体研修2 ダブルリミテッドについて

・九州大学 柳瀬千恵美先生

ダブルリミテッドについてお話いただきました。二言語が相互依存しているお話の後に、複数言語を学び使用するものが、どの言語も巧みに使いこなせていないようにみえる現象を「リミテッド状況」と呼び、それはあくまでも一時的な状況であり、何らかの変化や支援によって改善する見込みがあることを含んだ名称です。私たちはこのような状況に当てはまる子供たちの要因を的確に把握し、それを改善する指導をしていかなければならないと改めて感じました。

- 実際に起こっているリミテッド状況について、日本語能力や思考言語が問題なのか、知的機能の要因によるものなのかを正確に把握し、アセスメントする必要があると感じました。
- 基本ではありますが、読むこと、書くこと、母語を大切にすることに尽きると感じました。

研修3 学年末の仕事

・春吉小学校 吉永典子先生

学年末のこれからの時期にしておくべきことをご指導いただきました。また、指導の記録などの日本語指導に関する書類の取り扱いについても詳しくお話いただきました。来年度のより良い指導にいかせるよう、また指導終了後にどのような指導を受けていたのかわかるように丁寧に行いたいと思います。

全体研修3 グループ研修

・春吉小学校 山本光一先生 立和田理恵先生

グループで進めている研究の進捗状況の確認と来月の発表のためにデータや資料の作成を行いました。来月の発表に向けてさらに良いものにしていきます。

